



## 「5つのワンダーハテナ」解説（低学年～中学年向け）

この5つの問いかけは、子どもたちが学習の中で、「見出す・発見する → 問いを持つ → 多角的に捉える → 関連付ける → 仮説を立てる」という流れで、思考を広げることを目的としたものです。

探究のサイクル（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を自律的に回すための基礎をトレーニングします。

### ●授業で活用するための基本質問と育てる力

- ・なににきづいた？ → 見出す・発見する力（観察の視点の明確化）
- ・ふしぎに思ったことは？ → 問いを持つ力（好奇心の発揮、問いを設定する態度）
- ・どんなきもちになった？ → 多面的に捉える力（共感的・客観的な分析）
- ・じぶんとなにかにってる？ → 関連付ける力（知識のネットワーク化・深化）
- ・このあとどうなりそう？ → 仮説を立てる力（見通しの立案・推論）

### ●指導上のポイント：探究の質を高めるために

総合的な学習の時間だけでなく、様々な授業のあらゆる場面で活用できます。導入、観察、活動中、話し合い、振り返りで有効です。

- ・問いかけは順番どおり5つでも、1つだけでもOK
- ・児童の発言を待つ（10秒ルール）
- ・正解ではなく、気づきや考えを大切にする
- ・低学年では口頭中心、安心して発言することを大切にする

### ●なるほど！エージェントのテーマ動画を活用する場合

テーマ動画を視聴する際に、動画を止めながら問いかけをしていくのもおすすめです。

- ・視聴前：「どんなお話かな？」
- ・視聴中：「なにしてる？」「なんでかな？」
- ・視聴後：5つのワンダーハテナ
- ・振り返り：「みんなの意見を聞いて、どう思う？」



## 「7つのワンダーハテナ」解説（高学年～中学年向け）

この7つの問いかけは、子どもたちが学習の中で、「情報を抽出する → 分類・分析する → 理由づける → 変化を捉える → 関連付ける → 多面的に考える → 創造する」というより高度で論理的な思考プロセスをたどることを目的としたものです。

「5つのワンダーハテナ」が「気づき」や「関心」を広げるものであるのに対し、この7つの問いは、集めた情報を多角的にとらえ、自分なりに答えのない問いに対する考えを導き出すことまでをトレーニングします。

### ●授業で活用するための基本質問と育てる力

- ・どんなもの？ → 情報を抽出する力（必要な情報の選定）
- ・何がおきてる？ → 分類・分析する力（情報の要素分解、状況の構造的な理解）
- ・どうしてかな？ → 理由づける力（根拠に基づく、論理的説明）
- ・どう変わる？ → 変化を捉える力（時間軸・条件等による変容の予測・分析）
- ・何とつながってる？ → 関連付ける力（知識のネットワーク化・深化）
- ・ほかの見方はある？ → 多面的に考える力（批判的な視点を持つ）
- ・君にできることは？ → 創造する力（解決策の考案、自分なりの価値創造）

### ●指導上のポイント：探究の質を高めるために

総合的な学習の時間だけでなく、様々な授業のあらゆる場面で活用できます。導入、観察、活動中、話し合い、振り返りで有効です。

- ・問いかけは順番どおり7つでも、1つだけでも OK
- ・児童の発言を待つ（10秒ルール）
- ・正解ではなく、気づきや考えを大切に
- ・高学年ではワークシートを使いこなすことを目指す

### ●なるほど！エージェントのテーマ動画を活用する場合

テーマ動画を視聴する際に、動画を止めながら問いかけをしていくのもおすすめです。

- ・視聴前：「どんな内容だと思う？」
- ・視聴中：「なにしてる？」「なんでかな？」
- ・視聴後：7つのワンダーハテナ ※児童・生徒がグループでの話し合いで活用することも可能
- ・振り返り：「みんなの意見を聞いて、どう思う？」